

車上泊がポイントまで徒歩30秒。

釣りの宿
釣りの旅

ジヤパニーズ スタイル

朝目覚めれば、すぐ目の前が釣り場という贅沢！ 車内を整理することも、キャンプ場を捜す手間もいらない。車上泊なら、駐車スペースさえあれば、そこが今夜の宿になる！

車内に釣り具満載のまま快眠！

今月号ではさまざまな釣り旅を特集で紹介しているが、宿を利用しないテント泊派あるいは車中泊派も多いはず。でも、車上泊派はまだ少ないのでは？ 釣り人泣かせの煩雑な荷物はそのままに、釣り場で快眠のスヌメ。

日本の理想と現実

どこまでも続く地平線。ベッド、キッチン、シャワー、トイレ完備のキャンピングカーに家族や仲間を乗せて、そして釣り具を満載して夏のバカンスへ……。

誰しも一度や二度はこんな釣り旅を夢想したことがあるだろう。しかし、冷静になって考えてみると、この国の一般的な家庭では、それが御伽噺の世界であることに気づかされる。

まず、キャンピングカーは日常生活においては無用の長物でしかないから、当然、セカンドカーになる。広大な庭があ

り、何台も車を止められるスペースがあるのなら話は別だが、一般的には車1台の駐車代すら馬鹿にならないと考えているところに、トラック並みのスペースが必要になる駐車場代を余計に支払わなければならないのだから、家計を直撃すること必至。

ストレスは金銭面だけではない。実際に釣り場で活用しようと思うと、入れるポイントがかなり限定される。アユ釣りや溪流釣りはもちろんのこと、地磯の釣りにおいても、好ポイントへ続く道の多くは普通乗用車がなんとか1台通れるくらい細い未舗装の農道や林道だったりする。だから地元の釣り人は小回りが利き、悪路にも強い4WDの軽自動車を活用していることが多いのだが、幅が広く重量もあるキャンピングカーでは立ち往生してしまうだろう。

もちろん、キャンピングカーを否定しているわけではない。あればとっても便利だし、アウトドアライフが楽しくなるだろう。しかし、国土の狭いのが国の現実に即さない部分があることも事実。

といっても、わが国にオートキャンブやバカンスが似合わないといっているわけではない。むしろ、旅人にありがたき施設が充実しているといえる。

たとえば道の駅。日本全国、どこへ行っても主要道路や観光地のそばに駐車場、休憩施設、交通情報、トイレ、食事処を兼ね備えた道の駅が多数存在する。海や川のそばにも多く、ここを



「何かと荷物の多い釣り人の車内って、だいたいこんな感じで寝るスペースなんてないですね」
車中泊の場合、こんな大荷物を片付けてスペースを作らなければならぬのが億劫だった



イタリアのアウトドアメーカー「ZIFER」社製「コロムブス」。バカンス天国イタリア生まれのグレモノだ。今回はコロムブスカップル（ヨコ130cm×タテ210cm×高さ展開時150cm/約43kg/）を使用したが、このほかコロムブスミディアム（ヨコ145cm×タテ210cm×高さ展開時150cm/約49kg/）、コロムブスファミリー（ヨコ160cm×タテ215cm×高さ展開時150cm/約57kg/）もある